

オンライン集合研修特集号



※参加者のご承諾の上、掲載させて頂いております。

概要

モデル園において保育の質の向上に取り組まれる先生方の一助となるべく、ユニファ(株)では、全4回シリーズのオンライン集合研修を企画しました。去る6月11日に第一回、7月20日に第二回目の研修が行われ、全11園のモデル園の先生方にご参加いただきました。

今回のスマート保育園7月号では、第一回・第二回の集合研修内容の一部をご紹介します。

どんな内容だったの？

第一回「テーマ：保育の質の向上の重要なポイントと、チャレンジテーマの設定」

講師：玉川大学教育学部教授 大豆生田啓友先生

——「保育の質の向上」のために必要なことは何か——先生のこれまでの永年の研究から導き出された結果を、具体的な事例を用いつつご講義いただきました（感動して落涙する参加者も）。

- 1) 質の向上のために、子どもの主体的行動の過程を撮影し、ドキュメンテーションとして記録に残すことの重要性。
- 2) また、ドキュメンテーションを難しく考えず、作りこまず、写真活用し文章で説明することの意味。
- 3) そして、保育者間で「子どもの姿を語り合う機会」を持たせることが重要であることを教えていただきました。

参加者の声

子どもの主体性や発想を大切に、保護者の方にとっても保育者にとっても見える化することは大切なことだと改めて感じました。

参加された先生お一人お一人が、それぞれに気づきを得ました。

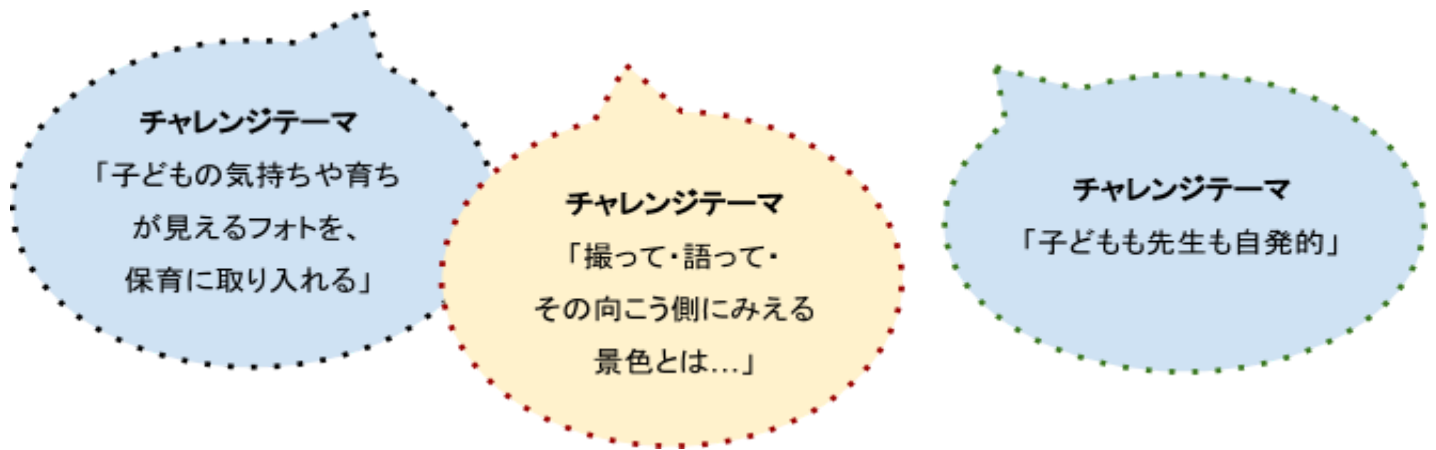
その後、少人数のグループに分かれて他の先生方と、それぞれの気づきを共有していただきました。

その上で、ご自身の園での課題を踏まえて、これから4か月間、実際の保育の現場で取り組んでいただくチャレンジテーマを設定しました。

～Web会議にチャレンジ～

コロナウイルスの影響もあり、Web会議ツール「ZOOM」を利用したオンライン研修といたしました。Web会議は初めてという園様も多かった中、80%以上の先生方から「非常に満足」「満足」とのご回答を頂き（不満回答ゼロ）、「オンライン利用は初めてですが、予想以上に簡単で楽しかった」「IT活用の敷居が下がった」等のお声も頂きました。ご協力くださった園の皆さまには心より御礼申し上げます。

チャレンジテーマ一例：



第二回「テーマ：記録としての写真活用の方法」

講師：保育のデザイン研究所 川辺尚子先生

保育の中で写真を撮る意味、そしてそれを活用することの大切さについて、第一回からさらに具体的に掘り下げ、現場の保育者視点でのご講義を頂きました。

記念写真だけでなく、記録写真を。カメラは常に持ち歩いておく。iPod、iPhoneをお持ちの場合は常にポケットに。記録写真を基に振り返り、語り合う。などシンプルなメッセージを、多くの事例を用いて説明頂き、理解を深めることができました。

この後、先生方がそれぞれに撮ってきた写真から、どんな状況と、子どものどんな資質・能力が読み取れるか？グループワークを実施しました。

どちらも大事な写真ですが



← 記念写真

記録写真 →



【グループワーク：この写真はなんだろう1】

①初めてこの写真を見た参加メンバーの感想

- ・新聞紙の中に何がはいつているのだろう。どうしたら（新聞紙の袋に）いっぱい入るかなと考えている？
- ・「見てみて、こんなのできたよ。」と先生に見せている。でも、紐がちょっと長いかなと思っている。

②写真の事実・エピソード

- ・園で育てているナスを使って煮びたしを作るイベントの日に、写真の子どもは、エプロン忘れてしまった。
- ・前に紙エプロンを使った経験から、紙でエプロンを作りたい！と言い出した
- ・作り方を本で調べたが載っておらず、各クラスに2,3台あるiPadで、先生に作り方を検索してもらった。
- ・作り方を見ながら友達と「もっとこうじゃない？」と協力してエプロンが完成。
- ・写真撮影するタイミングで、「できた！」とポーズとったら壊れてしまった。
- ・その後：
 - ・紙では紐が通せない事に気づき、ビニールでエプロンを再作成した。
 - ・次回エプロン持参の時は忘れないように、手にエプロンと書いて帰った



③写真にあるエピソードからどんな資質・能力が読み取れるか

【知識及び技能の基礎】

- ・「どのように作ろうか」と考えて、本、iPadで調べる技能。得られる知識。

【思考力・判断力・表現力等の基礎】

- ・「もっと短く/長くしてもいいかな。もっとこうじゃない？」
- ・エプロンを作りたいため、作り方をiPadで調べてほしいことを、先生に「想い」を伝える表現力。

【学びに向かう力・人間性等】

- ・エプロンを忘れたこと、頑張って作ったエプロンが壊れたこと、次につながる経験であり学び。
- ・「先生iPad使わせて。調べるの手伝って。」「（友達に）ここはどうしたらいいかな」先生や友達に、協力をお願いができる人間性。

【グループワーク：この写真はなんだろう？】



①初めてこの写真を見た参加メンバーの感想

- ・2人の会話が聞こえてくる「ありがとう」「見える？」
（下にいる子は）自分が見えていなくても喜んで友達を助ける様子
- ・「お友だちのお手伝いをするのが楽しいな」上の子が何かをしている？できた？
- ・何かを二人でやろうとしているように見える

②写真の事実・エピソード

- ・最初はコンテナ箱の中に入って遊んでいた。数人が集まってきてコンテナ箱でお城を作ろうと並べ始めた。
- ・上に重ねることが出来ることに気づくと高くしたいと皆で積み重ねていった。
- ・高くなったコンテナを見ているうちに自分たちも登りたいと考え始めた。
- ・よじ登るためブロック箱も重ねれば楽であることを知る。
- ・子どもたち自ら考え危険のない様お互い声を掛け合ったり支えあったりしていた。

③写真にあるエピソードからどんな資質・能力が読み取れるか

【知識及び技能の基礎】

- ・「積めるんだ」この形の箱は高く積めるということを知る。

【思考力・判断力・表現力等の基礎】

- ・「高いところは、危険だと知っているからこそ、注意し助け合えている」という気づき。

【学びに向かう力・人間性等】

- ・「危ないから助けてあげる」「押さえてあげる」
3歳児進級直後。友達と遊ぶことが楽しいと感じられるようになった時期であり、人間性が形成されている。

先生方が撮影した日常写真は、それぞれ視点が異なることで、色々な感想が生まれること、そして事実が分かった後は、口頭や文字だけでは伝わり切らない、子どもの成長、資質、能力を読み取ることができることを学びました。子どものワンシーンを周囲と共有することで、1人の先生の学びが何倍もの価値を持つことが分かりました。（モデル園の皆様の、全ての素敵な写真を紹介できず残念です・・・）

